

一般質問

Q & A



センター開設場所候補地のひとつ「希望の丘」内施設



共に創る掛川
窪野 愛子

総合発達支援センター 開設で切れ目ない支援を

Q 乳幼児期から高齢期まで切れ目ない支援を行うために、間口が広く敷居が低い、誰もが気軽に足を運ぶことができる、協働による運営形態を取り入れた、センター開設で窓口の一本化は図れないか伺う。

センター開設を目指し 検討を進める

A 早期の対応が必要であると考え、「(仮称)発達相談

センター」の平成30年4月開設を目指し、現在、関係する3部7課で庁内検討会を立ち上げ、協議を進めています。窓口の一本化により、乳幼児期から高齢期まで年齢を問わず対応が可能になり、相談内容によっては、市の担当課や医療機関、支援機関などへつなげていく予定です。

松ヶ岡修復計画の 取り組みは

Q 掛川藩御用商人山崎家の邸宅を平成24年に購入した。建造物は老朽化が著しく、修復の費用は4億円と試算されている。市税の投入がなくても事業計画は、今後、予定どおり遂行できるのか伺う。

市税の投入は考えていない

A 現在、多くの市民の方々とともに様々な方法により募金活動を行っているところであり、寄附金や募金の他、国の交付金等を活用できるよう取り組んでいます。こうした財源が確保できれば、予定どおり遂行できるものと考えています。市税の投入は考えていません。



共に創る掛川
松浦 昌巳

20年先の茶業振興のために、 消費に関する調査実施を

Q 掛川の深蒸し茶は、産地賞や農林水産大臣賞を受賞するなど、国内の評価は非常に高い。しかし、子どもたちの水筒の中身は緑茶より麦茶が多いと聞く。緑茶の消費に関して、正直な意見を聞く調査を行えないか伺う。

消費者ニーズを把握する 必要あり

A 消費者の不満や希望など、正直な意見を聞く調



市役所本庁舎に展示されている「全国茶品評会の産地賞」旗

査は、今後10年、20年先の茶業振興を考えたときに必要であると考えますので、あらためて子どもをもつ若い親御さんや、緑茶を普段飲んでいない人との意見交換、聞き取り調査を実施していきます。

小中学校の教室にも エアコン設置を

Q 2020年には学習指導要領が改正され、小学5・6年生では年間授業数が35時間増加する。夏場の気温も年々上昇する中、教育環境の確保のため、小中学校にエアコンを設置できないか伺う。

健康面や学習環境面での 必要性を研究する

A 近年の異常気象による、室内の高湿・多湿の状況を考えますと、今後は室内温度等の現状を調査し、なにより子どもの健康面や学習環境面などから、エアコン設置の必要性や整備基準などについて研究していきたいと思えます。

【他の質問事項】
・国際交流とシティプロモーションについて